

## 助成対象事業成果概要報告書(概要版)

制度名	高齢者・障害者向け通信・放送サービス充実研究開発助成事業
助成対象事業名	「高齢者・障害者へのサービスレベル向上のための訪問介護支援システムの研究開発」
助成対象事業者名	生活協同組合コープかながわ

### [研究開発課題の全般について]

①	助成対象事業の概要	ヘルパー間の申し送り伝達の支援, ならびに介護現場でのコミュニケーションに利用できる話題を自動配信するネットワーク型サービスを開発する。その特徴として, 紙に書いた情報がそのまま電子化されるデジタルペン技術を用い, 機器利用が苦手な高齢ヘルパーもこれまで通りの記録方法でデータ入力ができ, また, 高齢の被介護者とのコミュニケーションに困難を感じる若手ヘルパーの会話にも活かせる話題情報を追加して携帯電話に自動配信する機能を開発する。
②	助成対象事業の目標	訪問介護における情報共有を円滑にするために開発されたネットワークシステムとその利用効果測定の調査結果が最終成果となる。また, その中の具体として, 訪問介護に役立つ情報の内容とその情報のITを活用した簡易な共有方法の提案, ならびに利用者の興味・関心へ適応する話題提供を用いた訪問時のコミュニケーション支援システムの実現を目指す。

### [平成21年度実施部分について]

③	平成21年度助成金	9,227 千円
④	研究開発の実施内容	<p>高齢者・障害者へのサービスレベル向上のための訪問介護支援システムの研究開発を以下とおり実施した。</p> <p>(1) 申し送り情報の電子化・共有システムの開発 ヘルパーが毎回の申し送り(訪問介護記録書)の作成作業にデジタルペンを利用することで, 従来の作業スタイルを維持した上で申し送り情報を電子化した。</p> <p>(2) 訪問介護時におけるコミュニケーション支援機能の開発 介護場面で重要となるコミュニケーションを促進するため, 利用者との会話に役立つ話題をヘルパーに提供する機能を開発した。</p> <p>(3) 実証実験, 利用効果測定 上記(1)(2)の情報・データ及びサービス予定利用者名・提供時間等の情報をサービス提供開始30分前に該当ヘルパーの携帯メールに自動配信するシステムを開発し, 実稼働ヘルパー448名で実証実験・利用効果測定を行った。</p>

### [平成21年度実施部分における研究開発課題の成果や評価結果について]

⑤	研究開発の成果	<p>(1) 稼働ヘルパー448名中389名は, 自宅から利用者宅への直行直帰の登録型ヘルパーで, 利用者に関する情報伝達方法が電話・FAX等, また重要度の高い情報に限られていた以前の状況から, 今研究開発の訪問介護支援システムにより, 毎回確実に情報伝達できることとなった。</p> <p>(2) 前回のヘルパー等からの申し送り(連絡事項)や話題情報等, これまで届かなかった情報がサービス提供前に担当ヘルパーに伝わることにより, 利用者へのサービスレベル向上につながると考える。</p> <p>(3) 実稼働ヘルパー全員による実証実験を行い, 「申し送り」「話題」「予定」の情報をヘルパーの携帯メールに自動配信するという2009年度の開発目標を達成することができた。</p> <p>(4) 次年度の研究開発課題は, 話題提供システムの改良, デジタルペン活用対象者拡大, ヘルパーへの情報配信時間の個別設定化, セキュリティ対策等を実施し, 汎用性を高め商品化をめざす。</p>
⑥	研究成果の応用状況, 利用状況	平成21年度開発システム(3/16改良分)を稼働全ヘルパー(450名)に配信等活用中。